

通学区域制の見直しに係る 6 月県議会での主な意見

本会議（代表質問）

発 言 要 旨

（議論の在り方・方向性）

- ・第 3 学区内外の合格者の得点に依然開きがあり、更なる制度の見直しが必要。地元高校の活性化・魅力化も併せ、本県に相応しい制度となるよう十分議論してほしい。（徳島県議会自由民主党 眞貝議員）
- ・学区制についての急激な改革は望んでおらず、制度の見直しによる弊害が生じないように配慮すべき。（新しい県政を創る会 仁木議員）

（課題への対応）

- ・見直しの際には、周知期間や移行期間を十分確保してほしい。（徳島県議会自由民主党 眞貝議員）
- ・抜本の見直しを行う場合、入試制度や定員設定の在り方も検討が必要。（徳島県議会自由民主党 眞貝議員）
- ・どのような制度に見直すにせよ、一般選抜の不合格率を現状の 3 % 程度に抑えるなど、中学卒業後の進路未定者を増やさないことが重要。（新しい県政を創る会 仁木議員）

委員会（文教厚生委員会、こども未来・安心対策特別委員会）

発 言 要 旨

○有識者会議について

（議論の在り方・方向性）

- ・メリット、デメリット双方あるので、慎重な議論が必要。（重清委員）
- ・不公平感解消のために通学区域制の再編は必要。全ての生徒に公平な制度となるよう要望。（近藤委員）
- ・新たな問題が生じる可能性があるため、性急に進めるべきではない。他県事例を踏まえ、徐々に制度を変えて、廃止時には問題が生じないようにするのがベター。（古川委員）
- ・高校の特色化が進んでいない中での通学区域制廃止は時期尚早。また、第 2 学区は広すぎるので、少なくとも、板野町、石井町、鳴門市は、徳島市と同じ第 3 学区扱いとすべき。（扶川委員外議員）

（課題への対応）

- ・制度の見直し内容が大きいほど、周知・移行期間を十分取るなど、想定される課題への対応策についてもしっかり議論すべき。学区制を廃止し、失敗したでは話にならない。（重清委員）
- ・議会や市町村への説明を丁寧に行うとともに、生徒や学校現場が混乱しないように細心の注意を払って取り組んでもらいたい。（重清委員）
- ・本県に似た自治体で、学区制を廃止した先進事例をリサーチしてほしい。（古川委員）
- ・鳴門・板野・名西の各高校は、徳島市の周辺であり、遠方とは言えない。徳島市内の生徒が、これら以外の高校にどの程度行かざるを得なくなったか、分析してほしい。（古川委員）

（生徒・教員へのアンケート等）

- ・有識者会議だけで議論するのでなく、子どもたちや教員の意見も聞いてほしい。（重清委員）
- ・通学区域制廃止について、中高 6 学年を対象に「賛成、反対、どちらでもいい」と「その理由」などを聞いてほしい。中高教員の意見も聞いてほしい。（古川委員）
- ・子どもたちの意見を聞いてほしい。（井下委員）
- ・政治が教育の分野に入りすぎるべきではない。現場が判断するのが大事。（古川委員）

○高校の在り方について

- ・校舎の環境づくりなど、将来を見据えた学校づくりを進めることが必要。（井川委員）
- ・特色化・魅力化を推進し、行きたい高校づくりを進めていくことが必要。（井下委員）
- ・徳島市外に適正な大きさの学校を残せば、通学の利便性と選択肢の拡大及び切磋琢磨の機会確保は両立する。（扶川委員外議員）